



レポート

西

宮市立西宮東高校 船越 聡美

私が、このプログラムに参加しようと思ったきっかけは担任の先生からの薦めでした。それまで留学について深く考えたことがなかった私は、最初はあまり乗り気ではありませんでした。しかし、高校生のうちに留学できることはとても貴重だしやってみようかなという気持ちで応募しました。それから学校や市で面接を受け、留学生に選ばれた時は驚きと信じられない気持ちでいっぱいでした。

Yulien とは最初はお互い緊張していたけど、日本でたくさんの経験をしてもらいたいと思ったので、京都や奈良に行ったり、カラオケなどの日本ならではの施設に行ったりしました。普段行かないような場所にもたくさん行けたし、日本の良さを再発見することができました。**Yulien** 曰く本当に帰りたくなかったそうなので、それだけ日本を好きになってくれたのだと思い、とても嬉しかったです。

いつの間にか時間が過ぎ、スポークンに出発する日が来ました。出発前に、私は積極的にコミュニケーションをとる、自立心を身につけるという二つの目標を立てました。最初はふわふわした気持ちでした。しかし、シアトルについた瞬間、もう日本語が通じないということに気づきとても不安になりました。

スポークンにつくと **Yulien** やホストファミリーが出迎えてくれました。本当に温かい人ばかりで安心したのを覚えています。しかし、それからしばらくは自分の英語に自信がなく、人見知りもあってあまり学校や家でコミュニケーションをとることができませんでした。英語を聞き取ることだけで精一杯で、うまく返事ができず、言葉の壁を感じるばかりでした。

でも一週間たった頃、ホストファミリーと旅行に行った時、それまで以上にホストファミリーとコミュニケーションを取り英語をたくさん話したことにより、自分の英語でも時間はかかるけれど通じるということを実感して、すごく自信になりました。

それから学校でも次第に話せるようになりました。アメリカでは日本のように留学生が物珍しいものではなく日本のように特別待遇はされません。クラスの人にも自分から話しかけないといけなかったのが、最初はすごく緊張したけれど、話しかけるとみんな優しい人で、個性的な人たちでした。一緒に遊びに行くことはできなかったけど、昼休みに学校の周りのファストフード店に行ったり、ホームカミングの後に夜中までカードゲームをして遊んだりしたのが本当にいい思

い出です。

また、六週間過ごす中で、日本とは違うなと思う部分がたくさんありました。まず一つ目は、選択の仕方です。私は今まで特に自分の意志で物事を決めず、周りに流されてしまう人間だったので、「どっちでもいい」が口癖でした。でも、アメリカでは「どっちでもいい」は通用せず、最初はとても困りました。でも、自分の意志で返事をすれば嫌な顔はされなかったのも、はっきり自分の思いを伝えることの大切さを学び、アメリカではそれが普通なのだと思いました。

二つ目はご飯です。私はもともと野菜が嫌い、家ではあまり野菜を進んで食べてはいなかったけれど、毎日少しは食べるようにしていました。しかし、アメリカで過ごして一週間、一度も野菜を食べる機会がなく本当に驚きました。想像はしていたけどピザ、ハンバーガー、タコスなどなど普段月に一回しか食べられないような食べ物ばかりでした。だから、日本のバランスの取れた食事に改めて感心することができました。でも、決してアメリカのご飯が苦手なわけではなく、ホストファミリーが作ってくれる料理はいつも美味しく、初めて食べる料理もたくさんあってすごく新鮮でした。特にマックアンドチーズというアメリカでは人気の料理は、初めて食べたけれど大好きになりました。

三つ目は周りの人がみんなフレンドリーだったことです。私がスポーケンに滞在して三週間目ぐらいのときに、Yulienのおばあちゃんがスポーケンに遊びに来ました。ケンタッキー州に住んでいるので、お土産をもらいました。一緒にクッキーを作ったり、ドラマを見たりと本当の孫のように接してくれました。

また、日本に帰る何日か前にハロウィンがありました。その日の夜は仮装をして街を歩き回り、全然知らない人の家に行ってお菓子をもらうという日本では絶対にできない経験をしました。日本のハロウィンは仮装をするだけでお菓子をもらいに行く風習はないし、みんながフレンドリーなアメリカならではの風習だと思いました。でもその日一番印象的だったのは、お菓子をもらうために歩き回っていた途中に出会ったある家族です。その家族は家の前でバーベキューをしていて、私たちがその前に行くと、フランクフルトをご馳走してくれました。アメリカ人の優しさ、寛容さを身に染みて感じました。

最後は何事に対しても自由だということです。このことを特に感じたのは学校生活です。日本の学校では、校内で携帯を使うことや、授業中にお菓子を食することは許可されていません。日本では普通だと思うし何も珍しいことではないと思います。しかし、私が通っていたルイスアンドクラークや、その他ほとんどの高校では校内で携帯の使用が許可されているし、授業中の飲食も認められていました。ほとんどの生徒はお菓子を食しながらでも授業を聞いていて、先生の話聞きながら携帯を使用している人はいませんでした。

ただ単に自由なだけでなく、判断力があること前提の自由なのだと思います。そして、授業内での発言も自由でした。日本では、先生に当てられて発言することが多いので受動的な授業になってしまうけれど、アメリカでは生徒が自由に発言し、自分の意志を伝えていて生徒主体の授業になっていました。だから、学力を身に着けるのも大切だけれど、そういった場面で自分の意志を伝えられる人間力を私も身に着けていきたいと思いました。

そしてこれらの違いを学んだほか、スポーケンの魅力もしっかりと知ることができました。行く前からとてもきれいで自然が豊かなところだと聞いていたけれど、想像以上にいい街で、住みやすい街でした。

ダウンタウンではお土産を買ったりホストファミリーと晩御飯を食べたりしました。スポーケンのマグカップやTシャツを置いている店もあり、一つ一つのお店が個性的でした。また、リバーフロントパークなど自然豊かな場所にも連れて行ってもらいました。西宮とはまた一味違う

自然を感じることができました。そして、スポーケン以外に車でシアトルに旅行にも行きました。パブリックマーケット、スペースニードルなどの観光名所にも行くことができ本当に楽しかったし、また行きたいと思える町でした。

スポーケンで過ごした六週間は、一日一日が新しいことばかりで、すごく早いように感じました。しかし、積極的に話す、自立心を身に着けるという目標は達成できたと思います。もしスポーケンに行っていなかったら、普通の生活を送り続けていただけたと思うし、だからこそ普段なら体験できないことを体験できたのは私にとって、とても良かったと思います。いい出会いもたくさんあって、一人一人が私にとって、かけがえのない存在です。

私は大学生になったら、中国語を勉強して中国に留学したいと考えています。国は違っても今回の留学経験は大いに役立つと思うので、必ず役立てたいと思います。そして、英語の勉強も続けて、もっともっと英語を話せるようになり、またスポーケンに行きたいと思います。

